

平成29年7月21日

建設常任委員会 先進地行政視察報告書

建設常任委員会 赤石 継美

1. 視察年月日 平成29年7月11日(火)～平成29年7月13日(木)

2. 視察先と視察事項

※ 高知県 須崎市

・視察先 7月12日(水) 午前 9時30分から午前11時
高知県 須崎市 人口 22,699人(4末月現在)

・視察事項

『B-DASHプロジェクト』実証研究について

※ 愛媛県 西予市

・視察先 7月13日(木) 午前 9時から午前10時30分

愛媛県 ^{せいよ}西予市 人口 39,384人(4末月現在)

・視察事項

『^{しろかわちょうたお}城川町田穂地区景観計画』について

3. 内容及び成果

※ 高知県 須崎市の『B-DASHプロジェクト』について

須崎市では、B-DASHプロジェクト(国土交通省がすすめている下水道革新的技術実証事業)の一つ「DSHシステムを用いた水量変動追従型水処理技術」の実証事業に参画。この技術は、従来の標準活性汚泥法の代替となるダウンサイジング(処理施設規模の縮減)可能な水処理技術として、人口減少社会における下水処理場の事業経営の改善に貢献することが期待されている。

平成29年1月に須崎市終末処理場の実証施設が完成し、実証実験が開始された。

◇ 主な視察項目

① 実証事業の概要

② 現地視察

※ 愛媛県 西予市の『城川町田穂地区景観計画』について

西予市には、リアス式海岸・盆地・河成段丘・カルスト台地等の多様な地形が存在し、平成25年に市全域が「四国西予ジオパーク」として日本ジオパークに認定されている。同市は、平成27年3月に景観条例を制定し、景観計画の策定に向けて検討を始めた。

城川町田穂地区は、「日本の棚田百選」「にほんの里100選」に選ばれた堂の坂（どうのさこ）の棚田を有し、市内でも景観保全と地域づくりを先進的に行っているため、平成27年8月に当該地域を対象とした景観計画を策定された。

◇ 主な視察項目

- ① 計画策定の経緯
- ② 計画の概要と取り組み
- ③ 今後の課題等

以上視察の結果として、当市においても下水処理施設の維持管理の経費節減の観点からも、非常に参考となりました。今後さらなる検証や研究が必要と考えたところです。

さらには、西予市の景観計画については、当市においても十和田湖地区等一定の地域を定めて景観計画の策定が出来るような環境作りが必要と考えてまいりました。地域住民への景観に配慮した「まちづくり」が必要と考えます。

平成26年3月18日全員協議会決定

委員会行政視察報告書

委員会名	建設常任委員会			
活 動 委 員 名				
赤石継美	齊藤重美		織川貴司	
畑山親弘				
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
533,766		5,014	134,695	538,780
期 間 (年月日)	平成29年7月11日 ～ 平成29年7月13日 (2泊3日)			
視察事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ B-DASHプロジェクト実証研究について (高知県須崎市) ・ 西予市の景観計画について (愛媛県西予市) 			
視察先	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高知県須崎市 ・ 愛媛県西予市 			
内容及び成果				
別紙のとおり				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

建設常任委員会視察報告書

斉藤重美

高知県須崎市

平成29年7月12日

B-DASH プロジェクト実証研究について

当市は国の全額補助で国土交通省国土技術政策総合研究所の委託研究により、DHS システムを用いた水量変動追従型処理技術実証研究を行っています。

この研究は日本の人口が2040年には、すべての都道府県で人口が減少します。20%以上減少する県は、26道県になることが予想されています。減少率の多い順が秋田県・青森県・高知県・・・の順となっております。

そして今までの下水処理場は、人口が増えても大丈夫なように計画していましたが、人口が減ると、入ってくる下水量が予定より少なくなってきました、下水処理場もそれに合わせて小さくしてあげると良いですが、それが出来ないとの事です、ですから管理費(電気代、人件費)は下水の量が減っても変わりがなく下水料金も変わらないとの事でした。結局節約が出来ないです。

そこで B-DHS 工法は今までの処理方式よりも電気代が1/3に節約、さらに人件費も削減できるとの事です。

その訳は入ってくる下水の量によって電気代、人件費が増減することです。

十和田市の下水処理場・集落排水処理場も何か所かありますが、更新時期が迫ってきていると思っています、建て替えの時はお金のかからない、節約出来る下水処理場及び下水道料金を今より安く出来ればと思いました。

愛媛県西予市

平成29年7月13日

西予市の景観計画について

西予市は愛媛県の南西部に位置し、75%が山林で西にはみかんの段々畑と美しいリアス式海岸、東は四国カルストの山々を隔て高知県に接する広大な土地で1次産業を中心に発展した、海拔0mから1400mとの事です。

西予市は、豊かな景観の形成や町づくりを推進するため、西予市景観計画を

進めています。今回の視察は城川町田穂地区の「日本棚田百選」景観計画区域に選んだ理由等について視察してきました。

城川町田穂地区を景観計画区域に選んだ理由

田穂地区の棚田が「日本棚田百選」に選ばれ、地区の文化的景観が全国的に認められている。

棚田を活用したキャンドルイベントや都市住民・子供たちとの交流活動が住民主体で行われている。

田植えのあと、田穂・魚成地区で行われる「実盛送り」の行事が、日本を代表する農山漁村の美しい景観として、むらづくり対策推進本部長賞を受賞している。

田穂地区の景観特性

堂の坂の棚田

西予市の中山間地域の農村景観・石積みと一体となった農地景観・苗代期、生育期、成熟期と季節を感じさせる景観。

茶堂

旅人をもてなした地域の人々のもてなしの景観・バス停にも活用されている地域の生活景観の一部、祭りにも活用される祭事景観。

棚田との関わりの活動から

都市住民・子どもとのふれあい・交流景観・棚田という斜面を活用した夜のライトアップ景観・田穂地区のコミュニティの景観。

多面的機能発揮への取組と工夫から

景観を維持する営農の継続・地域のシンボルとしての茶堂を未来へ継承・案内板による地域の誇りの周知

など一部抜粋

十和田市も都市部・集落部担い手が少なくなっていると思います、地域を語り継ぎ守れるリーダーを育て、今以上に活気があって貰いたいとつくづく思いました。

平成26年3月18日 全員協議会決定

委員会行政視察報告書

委員会名 <u>建設常任委員会</u>				
活 動 委 員 名				
委員長 <u>赤石 継美</u>				
副委員長 <u>齊藤 重美</u>				
委員 <u>畑山 親弘</u>				
委員 <u>織川 貴司</u>				
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
533,766		5,014	134,695	538,780
期 間 (年月日)	H29年7月11日 ~ H29年7月13日 (2泊3日)			
視察事項	1. B-DASH 700 シェクトについて 2. 城川野田横地区景観計画について			
視察先	(高知県須崎市) (愛媛県西予市)			
内容及び成果				
<p>① 須崎市は全国の地方都市の人口減少は2040年には 予ての都府県を人口が減少し20%以上減少 する県は、26道県になる事から 「B-DASH 700 シェクト」 (三菱工業(株)、東北大学、香川高等専門学校 (高知工業高等専門学校、日本下水道事業団、須崎市 共同研究体)をメンバーとして、1980年をピークに 人口減少に陥っている現状を下水処理場を 下水道料金の収入が少なくなっても、お金のかかる 方法にするのが大事また下水処理場の古くなる まで作り直すより建設費が高く作り直した後の運転費 (電気代、人件費など)節約を考へる方法を考へて 今後今までの処理方法より電気代を 節約さらに人件費を削減する事で 下水を処理してまた生物膜を汚染して汚れた</p>				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

水たきれいして作れた建物(5億8千万円)

あります。

さいごに東北、北海道の寒い地域にはどうかなと感じました。

・(2)西予市は平成16年4月景観法を作り又平成17年10月に景観行政単位を作り、平成21年に平成22年西予市景観計画を策定し、平成23年3月から西予市景観計画(案)の7つのモデル地区を選定し当初は伊予市並み景観について策定を進めたが、特に城川町田代地区を景観計画地域に選んだ理由

(1)田代地区は住民単体の景観まちづくりが進んでいる事

(2)田代地区は柵田日本耕田百選に選ばれた地区の

文化的景観が全国的に知られている事

(3)柵田を中心とするキャンパスイベント活動が盛んな事

(4)オク国美しい日本のふる景観コンテスト「奥宮送り」の

行事を受賞している事

以上の事をふまえて、地域の良好な景観が損なわれるを事前に

防ぐため又柵田を中心とする地域のまちづくり活動を

盛り上げる事として柵田を地域の生活や都市住民との交流の

核となるイベントや地域の景観を継承する事

交流活動を継続し良好な地域コミュニティを維持できる

お、活やくしている事は、農業を営む68戸(197人)を

守るために行っている事は大変素晴らしいと思ひました

今は高齢者が多くなつて困っているおでありながら

どうかそんな文化を築いて頑張つてやってほしいと感じ

ました。

平成26年3月18日全員協議会決定

委員会行政視察報告書

委員会名 <u>伊賀常任委員会</u>				
活 動 委 員 名				
赤石 健 美				
赤 藤 希 美				
織 川 貴 可 弘				
小 畑 山 親 弘				
経 費 区 分				合計金額
1 研修旅費	2 自動車借上料	3 議長交際費	一人当りの費用	
533,766		5,014	134,695	538,780
期 間 (年月日)	29年 7月 11日 ~ 29年 7月 13日 (泊3日)			
視察事項	B-DASH700以外について 磯川町田徳地と早瀬計画について			
視察先	高知県須崎市並川と愛媛県西予市			
内容及び成果				
① 高知県須崎市は 昭和29年に5町村を合併し、人口24,000人全町で1町とし、 6月21日合併。合併63年目を迎える。現在人口は22,000人と減少して おり、下水道事業は以前経営不振の故、B-DASH700以外(即ち 通常の処理槽の排水処理技術実証事業)を導入し、2町2 の下水道事業を統一し、処理槽を用給して1町を2町に承知し、合併の 視察と取り組む。				
須崎市への下水道事業の活用開始は昭和54年である。当時21年間の 経過を経て、現在は下水道事業は、2014年まで進め、又人口減少に伴って 4町を2町に減らし平成25年経営改善に取り組んでいく。合併後 現場への力を入れたPF1方式で事業化をし、その1つとして取り組んで いる。				

※視察報告書の充実を図るため、視察時の質疑応答事項等も記載してください。視察者個々の所感は別途作成し添付してください。

